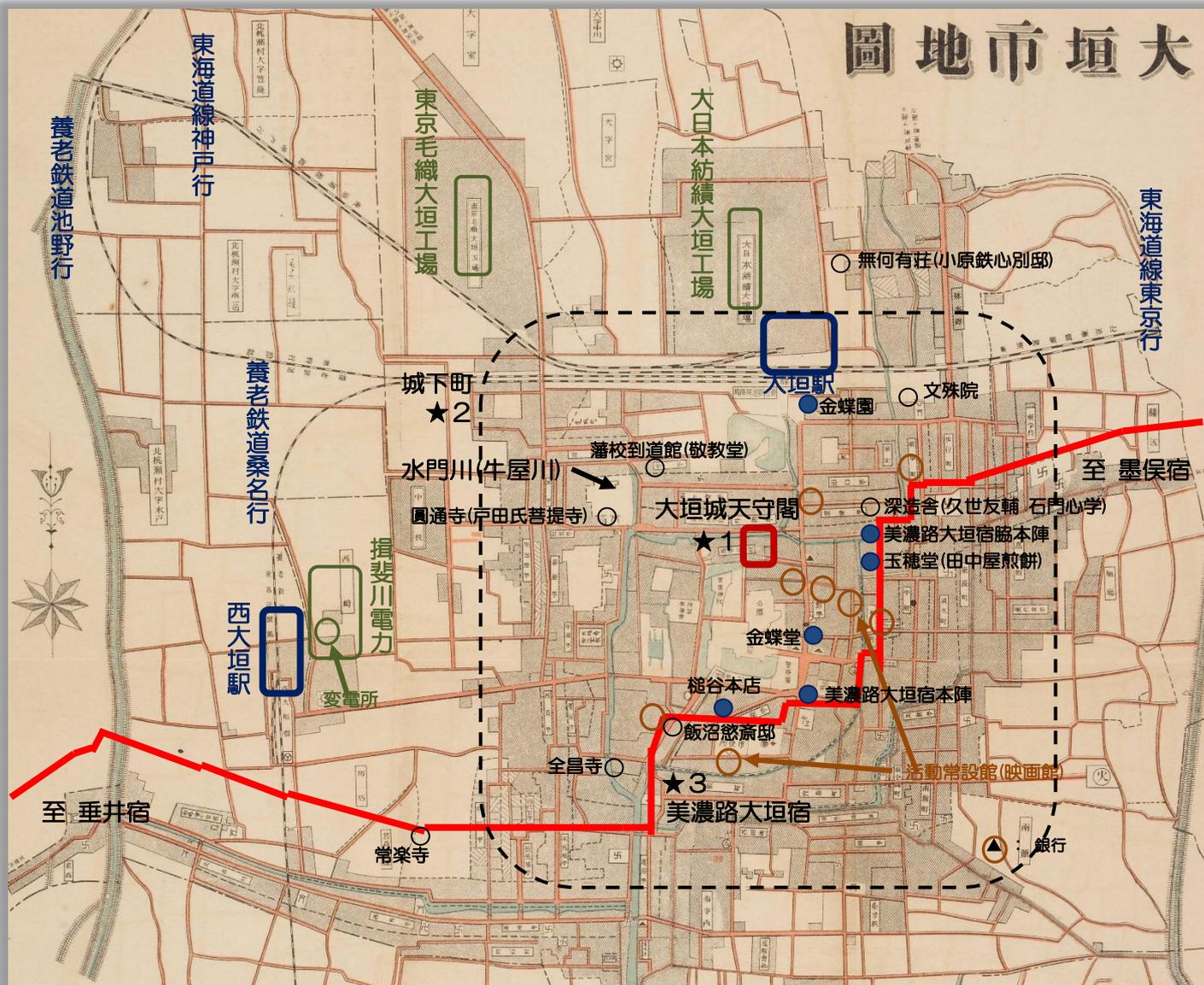


授業で使える当館所蔵地図

No.25『大垣市地図』(部分) 作成年:1922(大正11)年 サイズ:約40×36cm 作者:河田貞次郎

*原図に現在の主要な地名、施設などを重ね合わせています(岐阜県図書館作成)。



【解説】

日本は大戦景気の中、全国で鉄道建設や大規模工場の建設ラッシュだった。この地図からも、城下町として形成された当地が紡績・毛織工業を鉄道沿線に誘致し、電力会社も加えて新たな発展を始めた様子が読み取れる。太丸ゴシック体は、現在の地名、施設名を重ね合わせ明記したものである。

江戸時代の動き

★1 《大垣城》 牛屋川(現水門川 地図参照)を外堀に利用して、1500(明応9)年竹腰尚綱が築いたか、又は宮川安定が1535(天文4)年に築いたとされる。1600(慶長5)年、関ヶ原の戦いでは西軍・石田三成の本拠地となったが、石田率いる西軍の敗北により落城、徳川政権下で石川康道が城主となり、その後1635(寛永12)年、戸田氏鉄が摂津尼崎より移封され城主となり、明治まで譜代大名戸田氏11代10万石の太平の世が続いた。1936(昭和11)年国宝に指定されたが、1945(昭和20)年7月戦災で焼失。1959(昭和34)年4月天守再建。

★2 《城下町》 初代藩主戸田氏鉄の代、1649(慶安2)年頃に城下町完成。大垣は戸田家の安定した治世の下、美濃国最大の城下町として発展した。また、美濃路の宿場町・揖斐川水運の湊町として、西濃の経済的中心だった。城の南(京口)から東(名古屋口)にかけては美濃路沿いに町屋が、西から北には城を囲んで侍町があった。江戸期からの商家(地図中に菓子屋を標記)や学者(町人出身が多い)、明治以降の銀行・映画館などは町人の領域に集中している。



★3 《美濃路大垣宿》 中山道と東海道のバイパスとして幕府が管轄した全長58kmの街道。大垣・墨俣・起・萩原・稲葉・清洲・名古屋の美濃路七宿のうち、大垣宿が最長(2859m)で最大人口(家数903 人口5136 天保14年)。本陣は竹島町、脇本陣は本町にあった(地図参照)。朝鮮通信使・琉球王使・お茶壺道中なども通行した。

《寺院・学問》 江戸時代一貫して戸田氏支配 → 学問の伝統、「博士のまち・文教のまち」大垣へ連なる寺院 圓通寺(戸田氏菩提寺)・文殊院(鬼門鎮護)・常楽寺(裏鬼門鎮護)・全昌寺は戸田氏旧支配地尼崎から移転(地図参照)。
 学者 心学 久世治郎右衛門(友輔 大垣本町) 国学 大矢重門(俵町) 河地重矩(しげのり)・重虎(しげとら)
 本草学 飯沼慾斎(俵町) 蘭学 江馬蘭斎(藤江町) 書画 江馬細香(藤江町) 詩文 小原鉄心(無何有荘 林町)
 学校 藩校 致道館(1840(天保11)年→敬教堂 東外堀町) 私塾 深造舎(久世友輔 石門心学 大垣本町) 好蘭堂(江馬蘭斎 蘭学 藤江町)

《名産(菓子)》 城下町 + 街道筋という背景から需要が高く、今も営業している店が多い

槌谷祐七(柏家光章) 1755(宝暦5)年創業 1838(天保9)年より柿羊羹(堂上蜂谷柿を使用)。
 玉穂堂(田中屋煎餅) 1856(安政6)田中増吉 大垣丸山味噌店の味噌を使用、油を塗らず手焼き。
 金蝶園 1798(寛政10)年初代喜多野弥右工門が「舁屋」創業。
 二代弥三郎 1855(安政2)年 金蝶園饅頭創出。
 金蝶堂 1862(文久2)年、吉田すゑ(彦根藩奥女中)が金蝶饅頭(酒饅頭)創出。



槌谷本店(俵町)



田中屋煎餅(本店)



金蝶園本店(高屋町)

明治以降の動き

1869(明治2)年 大垣藩主戸田氏共(うしたか)版籍奉還 1871(明治4)年 廃藩置県で大垣県(同11月岐阜県に統合)
 1889(明治22)年 岐阜県安八郡大垣町(初代町長戸田銳之助) 1918(大正7)年 大垣市 初代市長三原範治

《工業の発展》 「第一次大戦後の大戦景気」が直接的背景 「豊富な工業用水 + 揖斐川の電力」が強み

〈鉄道〉 東海道線大垣駅：1884(明治17)年 養老鉄道西大垣駅：1913(大正2)年
 〈大日本紡績大垣工場〉 1915(大正4)年摂津紡績、大垣で操業 1918(大正7)年 大日本紡績株式会社
 1969(昭和44)年ニチポーと日本レイヨンが合併、「ユニチカ」に改名
 〈東京毛織大垣工場〉 1914(大正3)年後藤毛織 大垣で操業開始 1915(大正4)年東洋毛織
 1917(大正6)年東京毛織 1927(昭和2)年合同毛織 1936(昭和11)鐘淵紡績
 〈揖斐川電力(イビデン)〉 1912(大正元)年 揖斐川の水力発電会社 現在はプリント基板・セラミックス



大日本紡績大垣工場跡地



東京毛織大垣工場跡地



揖斐川電力(イビデン)線路西に移転

【利用の例】 ○城下町・宿場町として発展した跡をさがそう → 役所・武家地・寺院・町人地の各施設
 ○城下町が工業都市に発展した背景を考えよう → 鉄道・地下水(=工業用水)・揖斐川の水力発電
 ○電力を背景に生まれた市民の娯楽をさがそう → 「活動常設館」(映画館)がこの当時流行
 ○繊維工場跡地の土地利用の変化を見つけよう → 大型ショッピングセンターまたは住宅地
 参考文献「図説 大垣市史」・「大垣市ホームページ」(岐阜県大垣市)